

- 譜例-46-aが何とか音が出るようになったら、譜例-46-b,cを眺めながら練習して下さい。
譜例-46-aを「一声部記譜法」 譜例-46-bを「二声部記譜法」 譜例-46-cを「三声部記譜法」と呼びます。

譜例-46-b

- 譜例-46-aでは音を弾く位置しかわからず、譜例-46-bの「二声部記譜法」では低音の長さがどこまで伸ばす音かがわかりません。

譜例-46-c

- ギターでは「二声部記譜法」と「三声部記譜法」が多く使われていますが、1つの曲の中で両方の記譜法がごちゃ混ぜになっている(!)ことが多いので、良く読めるようになりましょう。

- 譜例-46-cの音を少し変えておきますので、練習しておいて下さい。あとで役に立ちます。

譜例-46-d

- 和音の練習をかねて「荒城の月」伴奏ヴァージョンも練習して下さい。
伴奏というのは音楽の流れを感じづらいため、「しっかりカウント」することがし易くなっています。
[B] 部分からテンポが速くならないように注意しましょう。

譜例-47